

Criterion 研究会 2009 in 福岡

開催日時：2009年7月5日 13:00~15:00

場所：アクロス福岡

事例発表：長崎純心大学 人文学部 英語情報学科
福島スーザン先生



Criterion 研究会は指導に Criterion を活用している先生に事例を発表していただくセミナーです。今回は長崎純心大学人文学部英語情報学科で英語卒業論文プログラムの中心として活躍する福島スーザン先生に発表していただきました。

英文ライティング指導における添削の課題

私は20年近く英文ライティングを教えています。ライティング指導における大きな課題は提出されたすべてのエッセイの添削です。英文ライティングを教える上で添削は欠かせません。なぜなら、学生自身が自分の間違いを認識することで学びが起こるからです。そして適切な添削を行うにはそれなりの時間を必要とします。

しかし、学生の数が増えれば増えるほどエッセイの添削には時間がかかります。私などはこまめにチェックするほうなので、そんな私の性格を知って、自分で書いたものを見直さずに提出してくる学生も中にはいます。これは大変大きな問題です。

英語卒業論文プログラム

私は長崎純心大学で英語情報学科に所属し1年生から4年生まで全学年を担当しています。この学科は、英語で意思疎通を図り適正に情報の処理と活用ができる「グローバル・リテラシーを備えた人材」を育成することを目的としており、学生は全員英語の卒業論文を提出しなければなりません。

入学間もない1年生は、パラグラフ一つすら書けない状態です。卒業するまでに大きくレベルアップする必要があります。そしてレベルアップした4年生は長い文章を提出するため、添削する時間も大幅に増えます。この添削作業を少しでも減らすには、学生にはある程度自己添削してから提出してほしいと考えました。

Criterion 導入以前の指導方法

今までの20年の指導において、Criterion を利用する前は様々な指導法を試みてきました。主なものは次の三つです。

Peer Checking：これは学生同士でお互いのエッセイをチェックします。この方法は、間違いを探す意識を高める上では有効です



長崎純心大学

が、学生の英語力によって左右するため、正確に間違いが見つからない場合が多いのが問題でした。

Marking Symbols：間違いのある箇所に私がしるしをつけます。修正はしません。しるしをつけるだけです。そうすることで学生は自分で修正をするために考えます。これは今でも用いている指導法です。しかし、これも結局時間がかかるというのが難点です。ネイティブ教員によるヘルプ：ネイティブスピーカーの先生に手伝ってもらうことです。これも今でも行っています。私の大学では、私が講義を担当し、他の外国人教員が学生のその他のサポートをするなど、仕事を分担しています。しかし、ある程度ネイティブスピーカーの先生の人数が揃っていても、これもまた時間がかかってしまうことは確かです。

Criterion の導入

5年前に Criterion のデモンストレーションをはじめて見たときはとても衝撃的でした。学生時代、卒業論文も修士論文もタイプライターで作成していたような、コンピュータが苦手の私としては、Criterion の機能に驚いたのです。今まで1時間かけて行っていたことがたったの20秒で出来てしまうのですから。この時間短縮は私たち指導者だけでなく、学生にとっても有益です。私たちがエッセイを一枚一枚チェックしていた頃は遅い時で2週間ほど待たなければいけなかったところを、あつという間にチェック結果が戻ってくるからです。時間の短縮は不可欠なので私は全学年で Criterion を導入しようと決断し、予算面で大学側にかけ合いました。運の良いことに予算が通り、2005年より現在まで使っています。

学生があらかじめ Criterion でチェックをしてから私たち教師に提出することで、私たちの作業時間もかなり短縮することができました。



福島スーザン先生

1年生と Criterion

1年生の授業では、まず約50名全員をコンピュータ教室に集め、Criterion にログインする方法から教えます。日本語で説明しながらゆっくり一緒に作業するので90分かかります。実際にはその場で文章を書く時間はないため、英語の文章を予め用意してもらい、それを入力したりコピー&ペーストしたりして Criterion の自動評価機能を試してもらいます。飲み込みの早さはまちまちですが、学生同士助け合うことで段々と理解していきます。Criterion はインターネットアクセスのため、大学だけでなく自宅からも利用できます。長崎純心大学は山の上にあるため、講義が終わったら学生はすぐに大学を出ます(笑)。宿題などは大学で行うよりは自宅で済ませることの方が多いため、自宅のコンピュータからのアクセスは便利に感じているようです。

Criterion を学生に「使わせる」方法

Criterion 導入当初、学生は登録してもあまり使いたがりませんでした。徐々に慣れることで少しずつ使うようになっていきました。ただ、もっと定期的・積極的に使わせるためにはどうしても学生にとってのインセンティブが必要だと考えました。そこで、私は Criterion の利用と成績の評価とを結びつけることにしました。これは 2 年次から行っているのですが、内容の良し悪しに関係なく、Criterion を利用しただけで成績評価の 10 パーセントになります。授業を 4 ステージに分けて、各ステージ一回ずつ Criterion で Submit (提出) するだけ、つまり一回の Submit につき成績の 2.5 パーセント分がつくことになります。そのときの Criterion によるスコアは評価に関係ありません。たとえ 10 パーセントでも、A と B、B と C、C と F の違いにつながる可能性があるのです。学生にとっても利用する価値は大きいといえます。こうすることで Criterion に慣れ、自発的に Criterion を利用する学生が増えていきます。現在は学生が Criterion で Submit したかどうかだけを成績評価に結びつけていますが、将来的にはその評価内容も成績に反映させたいと考えています。

Criterion への注文

学生の Criterion に対する評価は良好なのですが、全て英語でとつきにくいと感じている学生がまだいるのも事実です。そこで私が一つ Criterion に注文をつけるとしたら、基本的な文法用語くらいは日本語で表示してほしいということです (*1)。あるいは用語集を用意してもらうのでも構いません (*2)。そうすれば学生の負担も軽減されるのではないのでしょうか。その他の部分は英語のままがいいと思います。日本語の表記が多すぎると、どうしても日本語で考えてしまいがちだからです。英語で記入するわけですから、やはり思考も英語で行ってほしいのです。

*1.. 現バージョン (v9.1) で日本語表記もされるようになりました。

*2.. CIEE WEB サイト Criterion ページで用語集を利用できます。

Criterion 付属のトピックは使わない

長崎純心大学では私が Criterion でいう "Administrator" となってアカウントを管理しており、課題で使うトピックも自分が作成しています。Criterion 付属のトピックは使ったことがありません。自分でトピックを作成するには "Instructor topic" (Version 9.1 で "Text Editor" に名称変更) を選択します。これには Criterion によるスコアは出ず、Grammar や Usage などの分析だけが返ってきます。しかし、私はおもに学生に自分で間違いを見つけてもらうために利用していますから、スコアが出ないのはそれほど問題ではありません。オリジナルトピックの作成は、最初は多少時間がかかりますが、慣れてくれば簡単に作成できるようになります。

卒業論文の作成

学生が卒業論文を作成する場合は Microsoft Word と Criterion を併用し、最終的には E メールに添付するか、用紙に印刷して提出します。卒業論文は Criterion で一度にチェックさせるには長すぎるため、論文のセクションごとに貼り付けて提出します。各セクションはだいたい同じ構造をしているので問題はありません。

Criterion 活用のポイント

私たちが Criterion を使い始めて今年で 5 年目になります。ここまで長く使えているのは先述の様々な利点があるからです。Criterion を使い出してから学生の間違いが確かに減ったという評価を他の先生方からも聞きます。また、早い時期から Criterion を使っている学生のほうが英作文の上達が早いということも分かってきました。Criterion の欠点を一つ挙げるとしたら、各学生の総合的な英語力の判断はできないということです。それは当然教員の方が優れています。



ここで、今回の発表をまとめながら、長崎純心大学において Criterion 利用がうまくいっている理由を挙げたいと思います。

一つ目は、Criterion が 4 年間のライティングプログラムの一部を成し、それゆえに教員、学生共に重要なものと捉えられていることです。

二つ目は、学生にとって Criterion を利用することが成績においてボーナスポイントになるということです。いくら利用しても成績が下がるということはありません。上がることしかないので使わなければ損、というわけです。

三つ目は、学生にとって自分の弱点や、苦手な部分を意識させることができるものであることです。

四つ目は、私たち指導者のチェックの負担を軽減してくれるということです。

最後は、一人の教師、つまり私が英語情報学科におけるライティング指導の大部分を統括しているということです。そのためにある程度継続的に運営することができ、Criterion の利用も途切れることがないのです。

私は Criterion に出会えて本当によかったと思っています。これを通じてコンピュータの勉強も出来ました (笑)。今後も Criterion を使っていきたいと思っています。

「知恵のみちを歩み、人と世界に奉仕する」

長崎純心大学

〒 852-8558 長崎県長崎市三ツ山町 235 番地

TEL 095-846-0084

www.n-junshin.ac.jp/

Criterion に関するお問合せ

国際教育交換協議会 (CIEE) 日本代表部 TOEFL 事業部

E メール: criterion@cieej.or.jp 電話: 03-5467-5670 受付時間 9:30~17:30 (土日祝日除く)

WEB: www.cieej.or.jp/toefl/criterion

〒 150-8355 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 ギャラリーフロア

ciee

Council on International Educational Exchange

国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部

